九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Elevated Expression Level of MicroRNA-196a Is Predictive of Intestinal Type Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas

安藕, 鉄平

https://hdl.handle.net/2324/1441093

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

KYUSHU UNIVERSITY

氏　　名：　安藤　鉄平

論文題名：Elevated Expression Level of MicroRNA-196a Is Predictive of Intestinal Type Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas
（microRNA-196a 高発現は腸型膵管内乳頭粘液性腫瘍の診断予測因子となる）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)は軽度異型から浸潤癌まで幅広い病理像を呈する膵癌前駆病変の一種であるが、悪性度とは別に、形態学的に 4 つの組織亜型(胃型、腸型、胆膵型、好酸性顆粒細胞型）に分類される。このうち腸型は他の型(非腸型)に比べ、より高度異型を呈する一方で切除後の予後は良好であるという臨床病理学的特徴を有する。従って、術前に正確に腸型 IPMN を予測することで、適切な治療方針を決定できると考えられる。microRNA-196a(miR-196a)は腸上皮化生を特徴とするバレット食道や大腸癌組織での高発現が報告されており、腸型形質と miR-196a 高発現の関係は IPMN においても当てはまる可能性がある。本研究では IPMN 切除組織(34 例)および膵液サンプル(36 例)を用い、miR-196a 発現レベルの違いにより腸型 IPMN と非腸型 IPMN を鑑別できるかを検討した。定量的逆転写ポリメラーゼ連鎖反応法により、腸型 IPMN および非腸型 IPMN 切除組織中の miR-196a 発現量を解析したところ、有意に腸型 IPMN 組織において miR-196a が高発現していた($p<0.001$)。また膵液サンプル中の miR-196a を測定したところ、同様に腸型 IPMN の膵液サンプル中の miR-196a は非腸型 IPMN の膵液サンプルに比べ有意に高く($p=0.008$)、膵液中の miR-196a 解析による腸型 IPMN の診断予測感度、特異度は共に 83%であった。以上より、miR-196a 高発現と腸型 IPMN は関連しており、術前に膵液中の miR-196a を解析することで、腸型 IPMN の診断予測ができる可能性が示唆された。